

プログラム 近況報告

2014
年度

(2013年10月1日
～2014年9月30日)

ベトナム社会主義共和国
ムオンチャ地域開発プログラム (VNM-194418)

チャイルド・ストーリー

養豚を始めて収入が増えました。アヒルの飼育も始めました

ムオンチャ地域開発プログラム（以下、ADP）の支援地域で暮らすタオちゃんは、少数民族（モン族）の農家の次女として生まれました。タオちゃんの父親は読み書きができますが、母親はできません。以前この地域では、貧しい家庭の子どもや女の子は学校に行かず、家で家事や畑仕事を手伝って成長することが一般的でした。

この地域で支援が始まったのは6年前、タオちゃんが1年生の時でした。それまで両親は、山間の耕作地で農業を営み、何とか生計を立てていましたが、将来の暮らしや子どもの教育のことが常に不安だったと言います。そのような状況を打開するため、両親はADPの畜産訓練を受け、養豚を始めました。現在雌ブタ3頭を飼育し、生まれる子豚を売って年に500万ドン（234米ドル）を得ることができるようになりました。また、豚を売って得た収入で35羽のアヒルを購入し、飼育を始めました。タオちゃんも野菜の収穫や水洗い、家畜のえさやりなどを手伝っています。

「娘たちが毎日学校に行く姿を見るととても嬉しいです。二人のために収入が役立っていると思うと、働き甲斐があります」と母親は話します。「男の子も女の子も、みな可能性を持っています。子どもたちが教育を受け、夢を実現し、人の役に立つ人間になることを願っています。子どもたちの未来のために支援の手を差し伸べてくださっている皆さまに、心から感謝しています」タオちゃんの両親は笑顔で話してくれました。



母親と姉とともに家畜のえさを準備するタオちゃん（右、11歳）



準備したエサを豚にやります



アヒルの飼育も始めました

教育プロジェクト

就学前教育が着実に普及してきています

2014年度も地域住民、特に保護者を対象に教育の重要性についての啓発活動を行い、

1,000人を超える住民が活動に参加しました。対象地域となった3つのコミュニン*で、全日保育の幼稚園に通う子どもたちの数は2013年の653人から2014年度は807人に増えました。これは保護者の意識向上の一つの表れと言えます。

また、子どもたちが楽しくかつ効果的に学べるよう教員を対象に参加型教授法の研修を行っています。ほとんどの教員が研修での学びを活用しています。学校では通常の授業に加えて課外授業の実施も支援していますが、参加した子どもたちの数は幼稚園と小学校を合わせて1,325人にのびりました。

*ベトナムの地方行政の最小単位

全日保育の幼稚園に通う子どもたちの数が増加
653人 (2013年度)
→ 807人 (2014年度)



同じグループの物を探すゲームをする幼稚園児たち



グループ内での話し合いや発表を取り入れた「参加型学習法」を導入している小学校での授業の様子

子どもの健康プロジェクト

子どもの保健、栄養の問題に多角的に取り組むことで相乗効果が生まれています

対象地域内の慢性的栄養不良の子ども割合が減少
41.18% (2013年度)
→ 36.3% (2014年度)

対象地域の5歳未満児に占める栄養不良の子どもたちに対する取り組みでは、2014年度は慢性的栄養不良の子どもたちの割合が2013年の41.18%から2014年は36.3%に、低体重の子ども割合が2013年の23.02%から2014年には22.68%に減少したことが確認できました。子どもとその母親を対象にした栄養クラブの活動や、幼稚園の全日保育が定着し、そこで給食を提供し、子どもの栄養状態がモニタリングされるようになったことで、良い成果が出ています。

また、子どもの保健、栄養の問題を教育や収入向上の取り組みと関連付けて実施することによる相乗効果が生まれています。



栄養クラブで身近な食材を使った栄養ある食事作りを学ぶ保護者たち



産後の母親の健康管理と乳児の健康上の留意点について学ぶ母親たち

人材育成プロジェクト

隣村の診療所までの道の工事をを行う住民たち。工事の資材はADPが提供し、住民は労働で貢献しました



地域住民自身の参加と貢献が増えています

小規模事業の実施のための
住民自身の貢献度が増加
35% (2013年度)
→ 40% (2014年度)

地域住民が将来にわたってこの地域にある課題に取り組み、解決していくためには、住民同士の協力が不可欠であり、またそれを主導するリーダーの養成が必要です。このため、2014年度も地域住民自身が考え実施する活動を支援しました。住民主導の活動によって受益した人の数は4,483人にのびりました。そのうち、2,616人の子どもが、ヤギや牛、鶏の飼育といった収入向上に関連する活動を通して就学機会の増加や栄養の改善などの利益を受けました。

また、将来の自立に向けて、ADPでは地域住民自身による予算の確保や労働力の提供を奨励していますが、住民自身の能力と意識がともに向上してきている表れとして、その割合が2013年度の35%から40%に上がりました。



増えたヤギはほかの家族に分け、飼育の経験も伝えます。こうすることで地域内のほかの家族もヤギの飼育から収入を得ることができます

ADPから2匹のヤギの提供を受け、飼育して8匹に増やしたディンさん

支援地域の女性のインタビュー

娘にモン族の伝統的な刺繍を教えるハンさん(32歳)



飼育している豚のえさを作するため、バナナの茎を薄切りにしています。ADPの栄養クラブで野菜の栽培方法を学び、後ろに見えている家庭菜園で野菜も育てています

- Q. 家族構成を教えてください。
- A. 夫と3人の子どもの5人家族です。
- Q. 子どもの頃学校に通いましたか。
- A. いいえ、学校に行く機会はありませんでした。男の子だったら親が学校に行かせたかもしれませんが、たいていの女の子は家で家事や畑仕事を手伝うことが当たり前とされていました。
- Q. ADPのどのような活動に参加していますか。
- A. 現金収入を得るための家畜の飼育と繁殖の方法を学びました。現在、豚、ヤギ、アヒルを育てています。育てた家畜を売って、そのお金で家族のためにお米やほかの食べ物を買ったり、子どもの学費を工面したりしています。また、村の栄養クラブに参加し、家畜を飼育して現金収入を得ている経験話を話して、ほかのお母さんたちの参考にさせていただいています。
- Q. 活動に参加してどのような変化がありましたか。
- A. 収入が増え、将来に対して安心感を持てるようになりました。また、じっと受け身ではなく、立ち上がって自分たちの手で働こうという気持ちになりました。
- Q. 今の夢を教えてください。
- A. 私のような読み書きのできない女性が村に1人もいなくなることです。でも、これはすでに実現しつつありますから、夢とは言えないかもしれません。

ADPスタッフ インタビュー

- Q. ADPでどのような仕事をしていますか。
- A. チャイルドを定期的に訪問し、チャイルドの生活環境がきちんと改善しているか、健康であるかを確認しています。また、日本のチャイルド・スポンサーの方々とチャイルドの手紙の交換などの橋渡し役をしています。
- Q. 仕事上大変なことは何ですか。
- A. チャイルドとその家族に支援の効果が表れているか、ADPでは定期的にモニタリングを行っていますが、多くのチャイルドは少数民族で遠隔地に住んでいるので、地域ボランティアの助けなしには訪問しきれません。地域ボランティアとネットワークを作り、彼らに事業の目的を説明し、適切なモニタリングを行えるように訓練するのは大変な仕事です。
- Q. ADPで働く原動力となっているものは何ですか。
- A. 支援地域の人々の生活には多くの困難がありますが、WVのスタッフとして、彼らの生活に明らかな変化をもたらせるお手伝いができることを幸せに思います。



ムオンチャADPスタッフ 左から2人目がインタビューに答えたグエン・ビック・フェ (29歳)

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



誕生日を祝ってもらった子どもたち。誕生日のお祝い子どもたちにとっての記念としてだけでなく、出生登録の重要性を保護者に伝える機会として行っています

会計報告

収支計算書

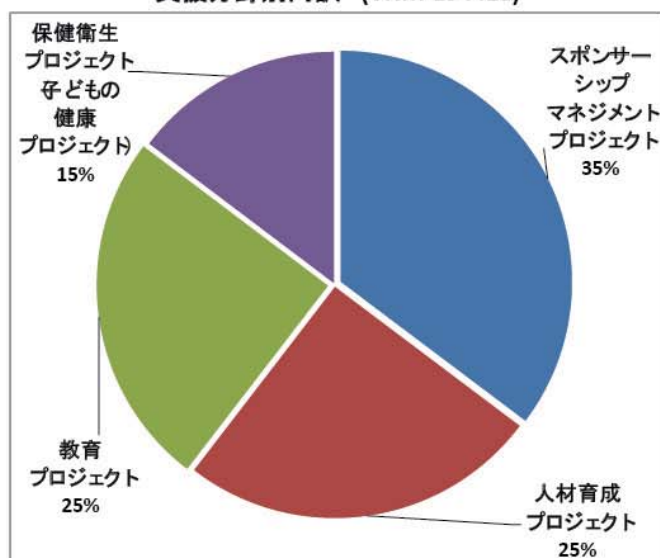
自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	25,440,582
当期支援額	25,440,582
前期繰越金	908,490
プログラム支援額合計	26,349,072

プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	7,814,477
人材育成プロジェクト	5,573,421
教育プロジェクト	5,509,456
保健衛生プロジェクト (子どもの健康プロジェクト)	3,257,704

プログラム支出額合計	22,155,058
次期繰越額	4,194,014

支援分野別内訳 (VNM-194418)



お問い合わせ
特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 | FAX：03-5334-5359 | Email：dservice@worldvision.or.jp | ホームページ：www.worldvision.jp
ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。